

南アルプス市立八田中学校 後期自己評価書

令和2年1月7日(火)作成

学校長：穴水 秀人

記述者：教頭 小林 雅人

【小中一貫校八田小中学校の教育】

1. 教育目標 「ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成」
～知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指して～
2. 『八田 Children first』 「明るい 伸びゆく 夢みる」児童から「未来を展く 理想は高く 世界をめざす」生徒へ
小中一貫校八田小中学校の教育は，【八田 Children first】をコンセプトに『1. 学習をつなぐ 2. 児童生徒をつなぐ 3. 教職員をつなぐ 4. 学校・家庭・地域をつなぐ』の4つの『つなぐプロジェクト』を柱とし，義務教育9年間で「途切れのない連続させた教育」となるよう取り組みます。
3. めざす児童生徒像
 - ふるさとを大切に思う児童生徒
 - 変化の激しい先行き不透明な社会に対応できる主体性のある児童生徒
 - 自律性・豊かな人間性を持ち，たくましく生きていくための健康，体力を持った児童生徒

【学校経営の概要】

1. 校訓 「日日新」
2. 学校教育目標
心豊かで かしこく 心身ともに健やかな生徒の育成
3. めざす生徒像
＝「知育・徳育・体育」の調和のとれた人間形成＝

は	励んで学び，確かな知識を持つ生徒	(知育)	→	知の力
っ	強い精神と身体を持つ生徒	(体育)	→	体の力
た	助け合い，いたわり合う心を持つ生徒	(徳育)	→	心の力

『当たり前のことを 当たり前にする』
4. 学校経営方針
 - (1)職員の創意・工夫により，開かれた特色ある信頼される学校づくりに努める。
 - (2)生徒理解を深め，一人一人のよさや可能性が活かされるよう努める。
 - (3)教職員としての資質能力の向上を図り，信頼される教育活動の実践・展開に努める。
 - (4)家庭・地域との連携により，望ましい教育環境づくりに努める。
5. 生徒の努力目標
 - (1)授業にしっかり取り組もう（主体的・能動的・積極的に取り組めたか）
 - (2)さわやかに挨拶をしよう（今日の，この出会いを大切に出来たか）
 - (3)思いやりの心を行動につなげよう（相手の身になって考え行動できたか）
 - (4)主体的に活動しよう（3本の木を大切に，創意工夫を持って取り組めたか）
6. 教師の努力目標
 - (1)社会や地域の変化に対応できる力を持ち，常に自らを見つめ直していく教師
 - (2)異なるものを受け入れ児童生徒の特性を見いだし伸ばしていく教師
 - (3)教職に対する責任感，探究力を持ち，生涯にわたり学び続けていく教師
 - (4)教員と生徒，また教師同士で互いに学び合い，育て合っていく教師
7. 学校経営の努力点
 - (1)知・徳・体の調和の取れた，「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施に努める。
 - (2)自ら学ぶ意欲を高め，基礎学力の定着を図る指導に努める。
 - (3)豊かな人間性をはぐくみ，心の安定を図る生徒指導に努める。
 - (4)体力・健康・安全に関する指導の充実に努める。
 - (5)家庭・地域・関係機関との連携を深め，開かれた信頼される学校づくりに努める。

I 後期学校評価の結果（前期学校評価との比較を含む）

1. 教職員の自己評価

※本年度南アルプス市より「小中一貫校八田小中学校」に制定され、自己評価の項目も小学校と同一のものとした。

(1) 後期の結果

① A・B（肯定的評価）の合計が100%の項目

11項目（前期：11項目）

② A・B（肯定的評価）の合計が80%未満の項目

「学校経営2：生徒は小中一貫校の教育目標『ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成』達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っていると思いますか。」（76.2%）

「特色ある開かれた学校20：教育活動等の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす体制が整えられている。（学校応援団や子供を守る会など）」（71.4%）

③ C・D（否定的評価）の評価がついた項目 ※自己評価21名実施

「学校経営2：生徒は小中一貫校の教育目標『ふるさとの未来（あす）を創造する児童生徒の育成』達成に近づくため、各自の目標を持って学校生活を送っていると思いますか。」（C4名・D1名）

「学校経営7：学校は、経営（運営）を充実したものとするために業務改善を推進していますか。」（C2名）

「教育課程・学習指導11：八田小中スタンダード（含む、教科別年間指導計画）を活用していますか。」
（C3名）

「教育課程・学習指導12：八田小中学習スタンダード（学習プロセス・学習ツール）を意識した授業づくりを進めていますか。」（C2名）

「教育課程・学習指導13：学習規律や学習スキル（聞く・話す）を意識した授業づくりを進めていますか。」
（C2名）

「教育課程・学習指導14：計画的な家庭学習の手立てをしていますか。」（C3名）

「生徒指導17：保護者（家庭）とは密に情報交換し、指導に取り組んでいますか。」（C1名）

「生徒指導18：外部関係機関を積極的に活用し、児童生徒の健全育成に努めていますか。（特別支援教育も含める。）」（C2名）

「特色ある開かれた学校19：学校は、開かれた学校を意識した、学校開放日等、保護者や地域に対し努力していますか。」（C1名）

「特色ある開かれた学校20：教育活動等の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす体制が整えられている。（学校応援団や子供を守る会など）」（C6名）

「特色ある開かれた学校22：小笠原流礼法を意識させ、心と体のバランスのとれた児童生徒の育成に努めていますか。」（C4名）

(2) 前期との比較

① A・B評価の合計が10%以上向上した項目

「教育課程・学習指導11：八田小中スタンダード（含む、教科別年間指導計画）を活用していますか。」
（72.0%→83.3%）

② A・B評価の合計が10%以上減少した項目

「特色ある開かれた学校20：教育活動等の中に地域の人材や施設を利用し、地域の教育力を生かす体制が整えられている。（学校応援団や子供を守る会など）」（95.0%→71.4%）

(3) これまでの成果と今後の取組課題（自由記述より抜粋）

- 「楽しい学校生活」が送れるように、それぞれの立ち位置で生徒に対応している。
- 「楽しい学校生活」について、個々の差の大きさを感じる。全てがうまくいくのは難しいだろうが、特別なことをするのではなく、毎日の生活の中で実感がもてるように仕組みを考えたい。
- 小中一貫校における教育目標の具現化を教職員が意識しているのが大切である。
- ふるさとの未来のため小中一貫で環境問題に取り組んでみてはどうか。
- 学校教育目標を達成させるための土壌づくりに心がけている。
- 学校だより・学年、学級通信を定期配布できている。
- 家庭に対して、その都度必要な情報提供を行っている。
- 防災関係では、予告なしのシェイクアウト訓練が良かった。
- 気になる生徒への対応は、きめ細やかに対応していると思う。
- 八田小中における児童生徒の交流や職員の交流を可能な限り実施している。
- 全ての教育活動の見直しを、時間をかけてしっかりとやるべきである。
- 行事の精選をしていかないと業務改善にはならない気がする。

- 合同校内研究が機能している。
- 「わかる授業」「生徒が意欲的に取り組む授業づくり」に関しては、研究の成果が表れてきている。意欲喚起のためには、「つかみ」を大切にしたい。
- 板書グッズを全教科で活用し、板書の構造化を図っている。板書グッズの活用が有効である。
- 最低でも全授業において「ゴール」と「振り返り」を徹底したい。
- 「学習規律や学習スキル（聞く・話す）を意識した授業づくり」であるが、来年度はここに視点をあてたらどうか。
- 計画的な家庭学習の手立てに、担任はこまめに対応していると思う。
- 家庭学習については、来年度統一した取り組みを進めたい。
- 家庭学習の習慣を付けさせたい。聞く力・伝える力を付けさせたい。
- 「生徒理解」「いじめのない楽しい学級づくり」「保護者との情報交換」等を全体的には良くやっていると思う。
- Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果を分析し、活用している。
- あいさつが少しずつ良くなっているが、もっと向上させたい。
- 生徒は3本の本を意識して行事に前向きに取り組んでいる。元気よく気持ちよく、あいさつや返事ができる生徒に育てたい。
- 地域の人的・物的資源の利活用をさらに推進していく必要を感じる。
- 教育活動に地域の人材や施設を利用したり、保護者や地域に対して開かれた学校にしたりすることは、今後の課題である。
- 合唱活動や学園祭など、特色ある学校行事が充実するよう全職員で努めている。
- 道徳科における「小笠原流礼法」の授業は意義深いものだが、日常への浸透度となると難しいところがある。
- 生徒の目指す姿に対して、教員の目指す指導・姿・プロセスなどをしっかり共通理解、認識、実践していくことが大事だと思う。
- 時代の変化（道徳の教科化など）とともに、「八田中の教育」も少しずつ変化していくべきだと感じる。
- 朝の10分間（8:25～8:35）が生徒にとって有意義な時間帯になっているのか、その目的を教師間で共有したい。

2. 学校生活に関する生徒アンケート

※今年度より小学校とほぼ同様の項目とした。ただし、発達段階が違うので表現が少し異なっている。

(1) 後期の結果

① A・B（肯定的評価）が高い（80%以上）項目について

20項目中12項目において、肯定的評価が80%以上となっている。また、90%以上が7項目あり、各学年においては、以下のようである。

② A・B（肯定的評価）が低い（80%未満）項目について

ア 1年生の評価

6項目。

「あなたは、授業中発言をしますか。（小グループでの話し合い時も含む）」（58.4%）

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。」（78.3%）

「あなたは、宿題以外にも家庭学習（塾や家庭教師を除く）に取り組んでいますか。（自主学习ノートを含む）」（61.7%）

「あなたは、家で読書をしていますか。（宿題を除く）」（71.7%）

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか。」（75.0%）

「あなたは、平日の睡眠時間はどのくらいですか。」

9時間以上…16人 8時間ぐらい…20人 6～7時間ぐらい…24人 6時間未満…0人

イ 2年生の評価

6項目。

「あなたは、授業中発言をしますか。（小グループでの話し合い時も含む）」（77.0%）

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。」（60.7%）

「あなたは、家で読書をしていますか。（宿題を除く）」（45.9%）

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか。」（44.2%）

「あなたは、平日の睡眠時間はどのくらいですか。」

9時間以上…5人 8時間ぐらい…20人 6～7時間ぐらい…32人 6時間未満…4人

「あなたは、家の人に学校の様子を話していますか。」（75.4%）

ウ 3年生の評価

12項目。

「あなたは、学校生活が全般的に楽しいと思いますか。」（75.4%）

「あなたは、授業中発言をしますか（小グループでの話し合い時も含む）。」（75.4%）

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。」（67.7%）

「あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか。(宿題等も含む)」(78.4%)

「あなたは、宿題以外にも家庭学習(塾や家庭教師を除く)に取り組んでいますか。(自主学習ノートを含む)」(66.1%)

「あなたは、家で読書をしていますか。(宿題を除く)」(46.2%)

「あなたには、悩みごとなどを相談できる友だちがいますか。」(76.9%)

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか。」(70.8%)

「あなたは、規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか。」(77.0%)

「あなたは、体力づくりに取り組んでいますか。(部活動を含む)」(49.3%)

「あなたは、平日の睡眠時間はどのくらいですか。」

9時間以上…4人 8時間ぐらい…10人 6～7時間ぐらい…35人 6時間未満…16人

「あなたは、家の人に学校の様子を話していますか。」(70.8%)

(2) 前期との比較

① A・B評価の合計が10%以上向上した項目

10%以上向上した項目はないが、2項目で5%程度向上が見られた。

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。」(63.0%→68.8%)

「あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか。(宿題等も含む)」
(78.0%→82.3%)

また、各学年においても10%以上向上した項目はないが、ある程度向上した項目は次の通りである。

【1年】

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。」(69.0%→78.3%)

「あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか。(宿題等も含む)」
(80.0%→88.3%)

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか。」(69.0%→75.0%)

「あなたは、規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか。」
(87.0%→95.0%)

【2年】

「あなたは、学校や学年・学級へ提出するものが出せていますか。(宿題等も含む)」
(77.0%→80.3%)

【3年】

「あなたは、授業中発言をしますか。(小グループでの話し合い等も含む)」(70.0%→75.4%)

「あなたは、背筋を伸ばし、良い姿勢で学習していますか。」(61.0%→67.7%)

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか。」(66.0%→70.8%)

「あなたは、学校生活での時間を守っていますか。」(94.0%→98.5%)

「あなたは、給食当番や清掃をしっかりとやっていますか。」(89.0%→95.4%)

② A・B評価の合計が10%以上減少した項目

10%以上減少した項目はないが、1項目で10%近く減少が見られた。

「あなたは、体力づくりに取り組んでいますか。(部活動を含む)」(86.0%→74.6%)

また、各学年では3年生で1項目10%以上減少した項目があり、ある程度減少した項目も次の通りである。

【1年】

「あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか。」(97.0%→90.0%)

【2年】

「あなたは、宿題以外にも家庭学習(塾や家庭教師を除く)に取り組んでいますか。(自主学習ノートを含む)」(90.0%→85.3%)

「あなたは、困ったことや心配なことがあったら、先生に相談しますか。」(49.0%→44.2%)

「あなたは、規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか。」(86.0%→80.3%)

【3年】

「あなたは、授業が全般的にわかりやすいと思いますか。」(88.0%→81.5%)

「あなたは、体力づくりに取り組んでいますか。(部活動を含む)」(80.0%→49.3%)

(3) 備考欄への記述(抜粋)

- 毎日が楽しい。
- 応用問題をもっとやりたい。
- 提出物はしっかり出している。
- 読書をする時間がない。
- 困ったことや心配なことがあったら、先生ではなく、親に相談する。
- あいさつ運動に取り組んでいて、自分からあいさつすることができた。
- 体力づくりは部活から引退して、しなくなってしまった。自主的にした方がいい。
- 夜勉強して寝る時間が遅くなる。

っていったほうがいいので、そういう中学校をモデル校にしたらいと思う。

○先生方の日頃の指導のおかげで、特に問題行動を起こすことなく、学校生活も日常生活も過ごすことができている。

○他学年でいじめのような事を子供から聞いたが、「学校に行きたくない」とも言う時もあるようだ。全員と仲良きは難しいが、すこしでも平和で楽しい学校生活になるようによろしくお願ひしたい。

○いじめの事を先生に相談しても無視されたようだ。

○携帯電話に関して、家で決めた事を守れていない事の方が多いので、他の家庭はどうしているのか（守らなかった時の決め事）知りたいと思う。

○オルガンの音が良くないようなので、替えて頂きたい。

○自転車通学の範囲を広げてほしい。

(4) 今後の取組課題（肯定的評価が85%未満の5項目を課題とする）

「お子さんは、授業の内容が分かっていると思いますか」（70.8%）

「お子さんは、宿題（課題）を忘れずにしていますか」（76.2%）

「お子さんは、宿題の他にも家庭学習（塾や家庭教師は除く）をしていますか」（53.3%）

「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか」（78.5%）

「学校は、いじめの未然防止や子どもたちの間違った行動などに対して、指導していると思いますか」（80.5%）

II まとめ(成果と課題)。

まずは基本的な考え方として、「改善」をしていくための学校評価でなければならない。したがって、理想を追い求め、「かくありたい」と願うだけではなく、実行可能な具体的な方策を以下に示したい。そして、実行できるものは、来年度からではなく、すぐに取り組む。

さて、「教職員自己評価」「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果から、前期と同様、今後も以下の事柄について更なる改善をしていく必要がある。

(1) 学力向上のための取組

【成果】

○本年度から南アルプス市「学びの質を高める授業づくり推進事業」の指定を受け、11月には「拡大校内研究会」を開催した。先行研究をしている八田小学校に学び、多くの先生方の指導を受けながら、全教職員が一丸となって「授業改善」に取り組んできた。

○生徒自らが授業規律について考え、生徒総会において「八田中学校学習の心構え」を全校生徒で承認をした。そして、一人一人が普段の授業を大切にしていくことを確認することができた。

【課題】

○「確かな学力を身につけ、自己実現を図ろうとする生徒の育成」をするために「学びの質を高める授業づくり」について、さらに実践研究をしていく必要がある。

○家庭学習の質や量に個人差があり、テスト期間前を除いては家庭学習をあまりやっていない生徒が多い。

【対策】

○校内研で確認された「学習の基盤となる学級集団づくり」「学習環境の整備」「板書グッズの活用」「座席表入りつなぐシート」等をこれからも継続して行っていく。

○今年生徒会で話し合っただけで決めた「八田中学学習の心構え」を、生徒に意識して取り組ませるとともに、今後も「学ぶことの意義や取り組み方」について考えさせていく。

○「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業を毎学期最低1回は単元を通して行う。その際、OPPA（1枚ポートフォリオ）を活用することで、生徒によるメタ認知を促すとともに教える側の振り返りにも役立てる。また、ルーブリックによる評価も取り入れていく。（指導と評価の一体化）

○学期末テストには、最低1問は「深い学び（「習得」「活用」「探究」）の過程を問う問題」を出題する。テストを変えることで、学びを変えることができる。

○小学校を含めた相互授業参観を行い、教師の授業力を高めていく。

○業務改善（行事等の見直しや働き方改革等）を行うことで、生徒と向き合う時間（学習会や質問等に答える時間）や教材研究等の時間をしっかりと確保する。

○県教委から出されている「学びの甲斐善八か条」を基に、家庭学習の定着を図る。「全国学力・学習状況調査」の結果からも以下のことを改善することが学力向上につながる。（家で学校の授業の復習をする。地域社会などでボランティア活動に参加したことがある。地域や社会で起こっている出来事に関心がある。新聞を読んでいる。朝食を毎日食べている。自学自習に取り組んでいる。読書をしている。）

○学年ごと「みんなで1000時間プロジェクト」のようなチームとして取り組む家庭学習を継続する。

○来年度の校内研究において、「家庭学習のあり方」についての研究を深め、継続的で有効な取組を全校体制で実施する。その際、小学校との繋がりも考える。

○読書習慣をつけたり、一日を落ち着いてスタートしたりするために、朝読書の時間（8:25～8:35）を充実させる。そのために、職員（担任）はそれまでに朝の打合せを終えて教室に行き、一緒に本を読む。

(2) いじめ・不登校に対する取組

【成果】

- 2学期間でいじめを10件認知し、①解消している(5件)②一定の解消が図られたが、継続支援中(2件)③解消に向けて取組中(3件)であった。重大事態(生命心身財産重大事態・不登校重大事態)は、今の所ない。

【課題】

- いじめの取組について保護者に理解されていないところもあつたり、まだまだ完璧ではないところもあつたりする。また、困ったことがある時に相談できる友だちや先生がいないと答えている生徒や保護者もいる。
- 学校規模からすると、不登校や不登校気味の生徒が少なくない。

【対策】

- 「学校いじめ防止基本方針」の見直しを3学期に行い、4月始めの職員会議において全職員で確認をする。
- 学年部会やPTA総会等を通じて、「学校いじめ防止基本方針」に則って取組をしていることを保護者に周知する。併せて、学校のホームページには以前から載せているが、その事も周知する。
- これからもいじめの認知を積極的に行い、早期発見・早期対応に努めていく。
- いじめの未然防止の取組(授業づくり・集団づくり・居場所づくり・絆づくり)を継続していく。
- 「いじめ対策委員会」を中心として、組織的な対応を行う。
- いじめ防止に繋がる道徳科の授業や道徳教育を充実させる。
- 校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。
- 不登校気味の生徒に対して、保健室だけではなく、個別の部屋(相談室・学習室・会議室・パソコン準備室等)を確保し、その対応にあたる。
- いじめの被害者や不登校生徒に寄り添いながら、相談(SCを含む)や家庭訪問等を行う。
- 保護者との連絡を密にするとともに、関係機関(児童相談所・市子育て支援課・警察署・病院等)との連携をとりながら、指導にあたる。

(3) 保護者および地域の人的・物的資源の利活用

【成果】

- 合唱指導・部活動指導・体育における武道の指導等の一部で、外部指導者をお願いし、生徒に専門的な指導を行うことができた。このことは教師の負担軽減にも繋がっている。
- PTA親子奉仕作業では、保護者の協力により普段生徒だけではできない「側溝の泥上げ」や「刈払機による草刈り」を行うことができた。
- 強歩大会では、安協や警察、保護者の協力を得ながら安全に実施することができた。

【課題】

- 学校応援団等の協力をお願いすることもなく、何を支援してもらいたいが明確ではない。今後学校運営協議会によるCS(コミュニティスクール)への移行や新学習指導要領による「社会に開かれた教育課程」の実現を考えた時に、地域人材や地域資源を利活用し、生徒に必要な資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントをどのように行うのが課題となってくる。

【対策】

- 学校通信や学年・学級通信等(HPも含む)で保護者に学校や生徒の様子が伝わるようにする。
- 学校開放日や授業参観、三者懇談等を毎月1回ぐらいの頻度で行い、保護者に出来るだけ学校に足を運んでもらうようにする。
- 来年度の「八田地区教育を語る会」においては、「ふれあい道徳授業」を行うとともに、生徒・保護者・教職員だけでなく、地域の方々も交えてディスカッションを行う。
- 生徒に地域の行事に積極的に参加するように呼びかける。部活動等もあるが、育成会の行事や防災訓練等にも参加させたい。
- 生徒の様子や地域の実態に踏まえた教育課程を編成する上で、どんな地域資源が活用できるかを考えていく。
- 地域人材や地域資源の洗い出しを行い、人材リストおよび地域資源リストを作成する。
- これからの社会に必要とされる資質能力を生徒に身につけさせるために、「保護者や地域の力を借りたいもの」を洗い出し、学校応援団等にもお願いをしていく。

※以上(1)(2)(3)に共通するのは、教職員の「業務改善」がキーワードとなることである。昨今は教員の多忙化による様々な弊害が取り上げられるようになってきているが、多忙化が解消されることによって「教材研究をする時間」や「生徒と向き合う時間」の確保ができるようになる。そして、それによって「学力向上のための授業改善」が実現し、「いじめ・不登校への対策」も万全となる。また、一方で保護者や地域の方々との協働が教職員の多忙化解消の一助となることは明らかである。教職員の「業務改善」に対するご理解をお願いするとともに、学校だけでなく「地域で子どもたちを育てる」という理念のもと、生徒たちのためにお互いに手を携えていきたい。